

Bonjour

ボンジュール!!

2015年
2月12日号

Vol.206



相次ぐ利下げ、通貨安競争勃発か？！

● 利下げラッシュ

世界の中央銀行が金融緩和に動いており、各国で利下げが相次いでいます。資源国を中心に原油安で景気に急ブレーキがかかったことやエネルギー価格の下落で世界的にインフレが落ち着いていることなどが背景にあります。欧州ではデフレ懸念が払拭出来ず、ついに欧州中央銀行(ECB)は量的金融緩和の導入を決定しました。ECBによる量的金融緩和の観測はユーロ売りを誘発したため、スイスやデンマークのように自国通貨高を抑制するために利下げに動いた国もあります。

■2015年以降の各国の金融政策一覧

1月15日	インド	政策金利引下げ
1月15日	スイス	政策金利引下げ
1月20日	トルコ	政策金利引下げ
1月21日	カナダ	政策金利引下げ
1月19日 1月22日	デンマーク	政策金利引下げ
1月22日	欧州中央銀行 (ECB)	量的金融緩和決定
1月30日	ロシア	政策金利引下げ
2月3日	オーストラリア	政策金利引下げ

● ドル独歩高、どこまで続く？

各国の中央銀行が金融緩和に舵をきる一方で、米国では今年半ば以降に利上げが予想されています。

いよいよ米国が世界に先駆けて利上げに踏み切れれば、一層の米ドル高が進むと予想されます。急激な米ドル高は米国の輸出競争力低下を招きます。既に一部企業の業績には米ドル高の悪影響が出始めており、企業サイドからは利上げ慎重論も聞こえてきます。

今後想定される米ドル高の影響を米国当局がどの程度許容できるか、どこまで米国が「強い米ドル」を容認できるかに注目が集まります。

● 中央銀行に逆らうな

イスタンブールで開かれていた20カ国・地域(G20)財務相・中央銀行総裁会議が10日閉幕し、「成長戦略を実施することに引き続きコミットする」との共同声明を表明しました。参加者からは、各国に成長戦略の加速を求める声が相次いだほか、原油安に加え多くの国で金融緩和政策を続けている事に対して、景気を下支えしているとの認識で一致し、通貨安競争は黙認された形です。今後も各国中央銀行の政策が為替を動かす大きな要因になりそうです。